

平成29年度静岡大学附属学校園学校評価シート

学校名	静岡大学教育学部附属特別支援学校
作成日	平成30年3月1日

重点事項項目	本年度の成果	自己評価	学校関係者評価	来年度に向けて
学校の経営	<p>(1) 安心・安全な学校 ○日常的な安全点検や用具・機器の管理が向上した。 ○児童生徒アンケートを2回実施し、いずれも90%以上が「学校が楽しい」と回答した。 ○起震車体験や非常食など多様な訓練を実施することができた。</p> <p>(2) 一人一人が伸びる学校 ○個別の指導計画の様式を変更したことで記載する内容が整理され、説明しやすいものとなった。 ○確かな学びを育む授業づくりを目指した授業改善を進めることができた。</p> <p>(3) 大学・地域と連携した信頼される学校 ○地域の施設や人材の協力を得ながら、地域を学習の場とする教育実践を展開する機会が増えた。 ○ホームページによる情報の発信回数が1.5倍に伸びた。</p>	<p>(1) 安心・安全な学校 ▲宿泊訓練棟、体育館などに大規模な修繕が必要となり学習面、予算面において多大な影響が出てしまった。 ○消防署や警察署と連携して非常時の対応訓練内容の充実を図ることができた。 ▲福祉避難所運営については具体化できなかった。</p> <p>(2) 一人一人が伸びる学校 ○個別の指導計画の様式を改善したことで表記しやすくなった。 ▲自立活動については職員の研修をさらに充実させていきたい。</p> <p>(3) 大学・地域と連携した信頼される学校 ○居住地校交流の実回数増（H28年度延19回→H29年度延21回） ○大学・地域の施設や人材を学習に活用した実践を増やすことができた。（ワークショップ、商店、介護施設等）</p>	<p>(1) 安心・安全な学校 ○思春期の性の芽生えを注意深く捉え、行動が習慣化してしまう前に低学年から丁寧に指導していく必要がある。 ○地域と連携した防災体制づくりも必要ではないか。</p> <p>(2) 一人一人が伸びる学校 ○小学部から高等部まで、年齢差のある縦割りの活動がとてても良い。 ○読書活動は児童生徒の成長にとても大切であるので、更なる充実を。</p> <p>(3) 大学と連携し保護者や地域から信頼される学校 ○地域とのつながりや大学と連携した取組は児童生徒にとって大切な学びの場であり充実させたい。 ○大学との連携は附属の強みである。 ○附属学校間の連携を強化を。</p>	<p>(1) 安心・安全な学校 ○学校安全計画や人権教育全体計画に基づく実践を進め、安全教育、人権教育の充実を進める。 ○福祉避難所に関わる体制の整備充実</p> <p>(2) 一人一人が伸びる学校 ○個別の教育支援計画、指導計画を実際に運用しながら、より良い改善を進める。 ・関係機関との連携と役割分担 ・家庭との共通理解での活用 ・継続性、一貫性のある教育 ・自立活動、教育相談等の校内体制を整える。 ○読書活動の充実</p> <p>(3) 大学と連携し保護者や地域から信頼される学校 ○居住地校交流のさらなる拡大と充実 ○お便りやホームページを活用した情報の発信</p>
教育研究	<p>(1) 大学との連携を深めた教育研究 ○大学の協力を得ながら2年間の研究を集録としてまとめ、研究協議会を通して地域に発信した。 ○児童生徒及び保護者が大学主催のワークショップに参加し、連携した教育実践を行うことができた。</p> <p>(2) センターの機能の充実 ○地域に開かれた専門性向上のための研修会と研究フォーラムを開催し、多くの参加者を得た。 ○自立活動の取組事例をまとめ、HPにて紹介した。</p>	<p>(1) 大学との連携を深めた教育研究 ○新学習指導要領の改訂に向けた視点を取り入れて、研究を進めることができた。共同研究者との連携をもっと深めていきたい。 ○教育研究論文入賞（個人賞2件、グループ賞1件）</p> <p>(2) センターの機能の充実 ○2回の夏季研修会に延50名程、研究フォーラムには120名程の外部参加があった。 ▲教育相談の潜在的なニーズに応える必要がある。</p>	<p>(1) 大学との連携を深めた教育研究 ○地域の学校のモデルとなつてほしい。気軽に訪問できるような学校に。</p> <p>(2) センターの機能の充実 ○特別な支援が必要な児童生徒への対応や支援は、地域の小中学校にも求められている。そうしたケースやニーズに対応する連携を。</p>	<p>(1) 大学との連携を深めた教育実践 ○共同研究者との連携をさらに深めながら、新たな研究テーマに取り組み、研究協議会を通して地域に発信する。 ○大学や地域の人材や施設を活用した本校ならではの教育実践を行い、成果を発信する。 (2) センターの機能の充実 ○内外の優れた取組事例や最新情報をホームページ等を活用して広く発信する。 ○専門性向上のための研修会を開催し地域の人材育成を図る。</p>
教育実習	<p>(1) 教育実習 ○事前指導の工夫や指導体制の見直しを行い、効果的に実施することができた。 ○配慮の必要な学生に対しては、大学と連携して対応することができた。 ○新たに実施した養護実習Ⅰについては、事前の準備で円滑に実施できた。</p> <p>(2) 介護等体験 ○延べ111名の学生を受け入れ、特別支援教育への関心を高めることができた。</p> <p>(3) その他 ○教職大学院1名、アシスタントティーチャー9名の受け入れを行った。</p>	<p>(1) 教育実習 ○特別支援教育実習では29名の学生に対し体制の見直しを行ったことで、学生・指導教員共に負担を軽減することができた。 ○配慮の必要な学生について、事前の情報提供や体制について大学と協議できたことが有効であった。</p> <p>(2) 介護等体験 ○事前指導の改善により、学生の意識向上が見られた。</p> <p>(3) その他 ○教職大学院生やアシスタントティーチャーの受け入れは教職員の負担軽減につながる。</p>	<p>(1) 教育実習 ○特別支援学校の新設が発表され、人材の育成という役割は大きい。</p> <p>(2) 介護等体験</p>	<p>(1) 教育実習 ○特別支援教育実習では実習生の増加に伴う体制の整備と内容の見直しを継続的に行う。 ○配慮の必要な実習生に対しては、大学との情報共有により個別にきめ細かく対応できる体制を整える必要がある。 (2) 介護等体験 ○事前指導の持ち方や体験録の使用方法などについて大学と確認し、学生への周知を図る。 (3) その他 ○教職大学院やアシスタントティーチャーの受け入れを積極的に行う。</p>